

令和6年度 教育活動の全体構想図（グランドデザイン）

北海道釧路鶴野支援学校

先を見通すことが困難な時代

－自分で目標を設定し、振り返り、責任を持って行動できるように－

生徒が教師の決まりきった指導や指示をそのまま受け入れるのではなく、未知なる環境の中を自力で歩みを進め、「ウェルビーイング」（心身ともに健康で、幸福であること）を実現していけるように 「OECD ラーニング・コンパス 2030」令和元年

－共生社会－

「共生社会」とは、これまで必ずしも十分に社会参加できるような環境になかった障害者等が、積極的に参加・貢献していくことができる社会である。それは、誰もが相互に人格と個性を尊重し支え合い、人々の多様な在り方を相互に認め合える全員参加型の社会である。 文部科学省HP 「共生社会の形成に向けて」

【教育の目的】教育は、人格の完成を目指し、平和で民主的な国家及び社会の形成者として必要な資質を備えた心身ともに健康な国民の育成を期して行われなければならない。（教育基本法）

学校教育目標

自立をめざして 明るく 元気に 努力し続ける人を育てる－校訓 全力 前進 笑顔－

育成したい資質・能力

- ・（様々な経験、体験を通した）知識、技能及び活用力
- ・（幅広い年齢層での交流を通した）コミュニケーション能力
- ・（継続して取り組む活動を通した）体力、運動習慣
- ・（地域との交流を通した）積極的に挑戦する態度

【聴覚障がい教育部門】

幼稚園部

何を学ぶのか

- ・聴覚障がい部門：小中に準ずる教育課程及び自立活動
- ・知的障がい教育部門：知的障害高等部職業学科及び普通科の教育課程

小学部

中学部

子どもの発達をどのように支援するのか

- ・受け入れられているという実感をもたらす環境
- ・肯定的な自己像を育む一人一人に応じた支援
- ・発達課題や心理状態等をおさえた専門的な支援
- ・自立と社会参加を見据えた支援

どのように展開するのか

- ・多面的アセスメント（個別的教育支援計画、医療情報、各種検査結果等）
- ・個別の指導計画に基づく実践
- ・学習評価や学校評価等に基づく評価及び改善

【知的障がい教育部門】

どう学ぶのか

- ・個性に応じた学び、他者と協働した学び
- ・主体的に考え学ぶ学習、実際のな体験を通して学ぶ学習
- ・ICTを積極的に活用した学習
- ・校内外の教育資源を積極的に活用する学習

何ができるようになるのか

- ・実際の社会や生活で生きて働く知識や技能の向上
- ・未知の状況にも対応できる思考力、判断力、表現力の向上
- ・学んだことを人生や社会に生かそうとする学びに向かう力の向上

高等部

職業学科

- ・環境・流通サポート科
- ・福祉サービス科
- ・生産技術科
- ・情報ものづくり科
- ・食品デザイン科

職業学科を設置している知的障がい特別支援学校高等部普通科

- ・普通科

安全・安心な学校

○安全・安心な環境

【安全安心にする仕組み】最悪の事態を想定した備え・予防策、対応訓練、迅速な連絡・報告・対応、ヒヤリハット情報の共有、対応策等の定期的な見直し

○安全・安心な職員

【プロ意識】教育のプロとしての知識と技量、法令順守、期待に応えようとするマインド、健康で余裕あるコンディション、怒りのコントロール

○安全・安心な対応

【相手への敬意】子ども・保護者・職員・関係者等、誰に対しても相手をリスペクトしている気持ちが伝わる対応、相手の存在を否定しない言動

地域とともにある学校

- ・情報発信（Webページ、学校だより、SNS等）

- ・釧路鶴野支援学校CS（学校運営協議会）

- ・学校公開、授業参観、地域連携学習

- ・特別支援学校のセンター的機能（各種教育相談、乳幼児相談、パートナー・ティーチャー派遣事業等）